

JR貨物の国際物流を取り巻く状況

平成27年3月16日
日本貨物鉄道株式会社
国際物流開発部

課題1. 鉄道輸送ネットワーク機能の強化

40ft背高コンテナの課題

現状： 40ftハイキューブ海上コンテナ輸送区間が限定される。東京⇄盛岡間通行可。

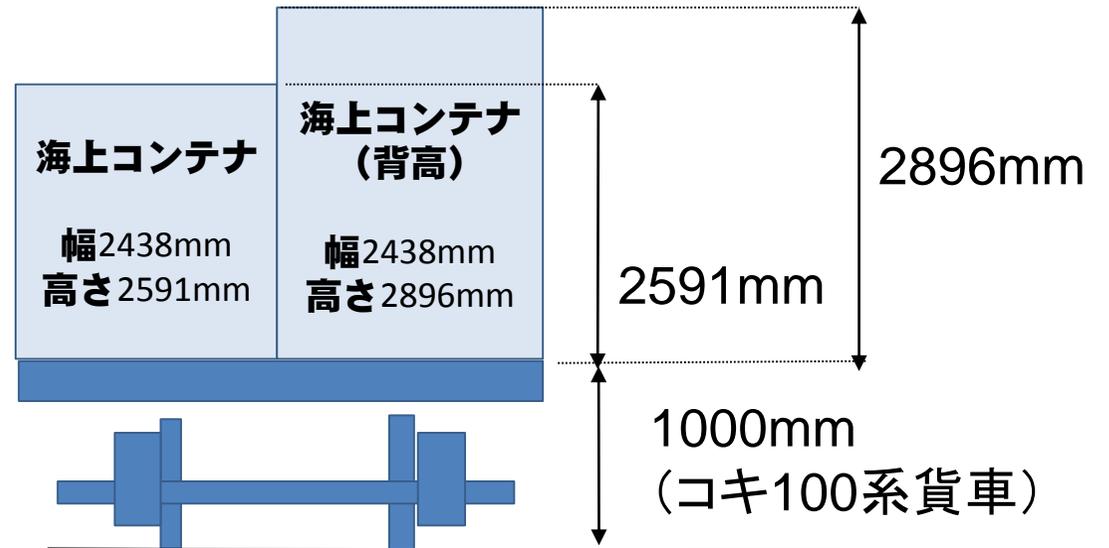
40ftハイキューブコンテナは、通常の40ftコンテナよりも高さが1フィート(約30cm)高くなっており、輸送区間が限定されている。



<左>20/40ftドライコンテナ
(高さ8フィート6インチ)

<右>20/40ftハイキューブコンテナ
(高さ9フィート6インチ)

海上コンテナを汎用貨車に積載した場合の 高さの比較

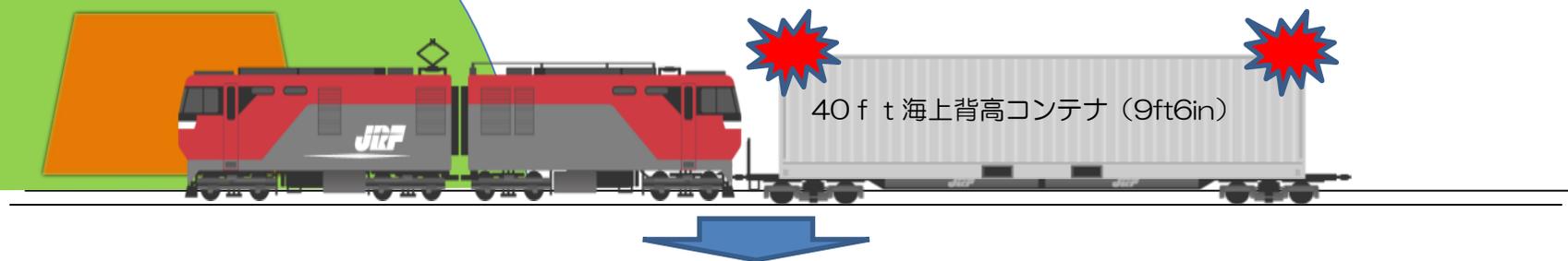


国土交通省： 政府における鉄道による国際輸送促進の試み

「鉄道による国際海上コンテナ輸送の促進に向けたモデル実証」

(イメージ)

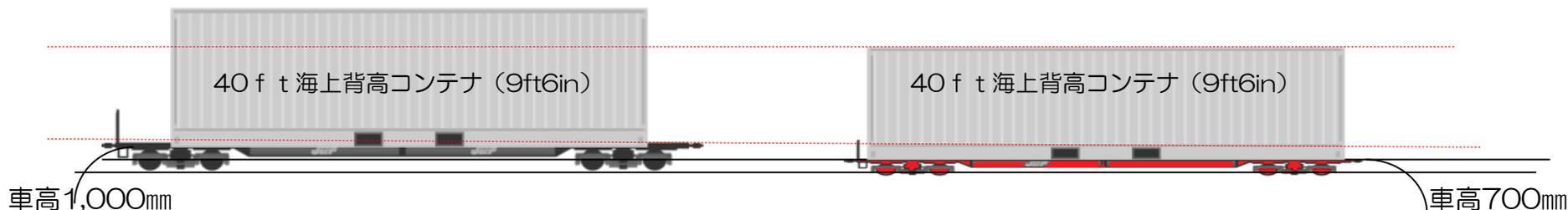
現在、40ft海上背高コンテナが通過出来ない区間が多数ある



低床貨車の導入(平成28年4月予定)

汎用貨車を使用すると・・・

低床貨車を使用できれば・・・

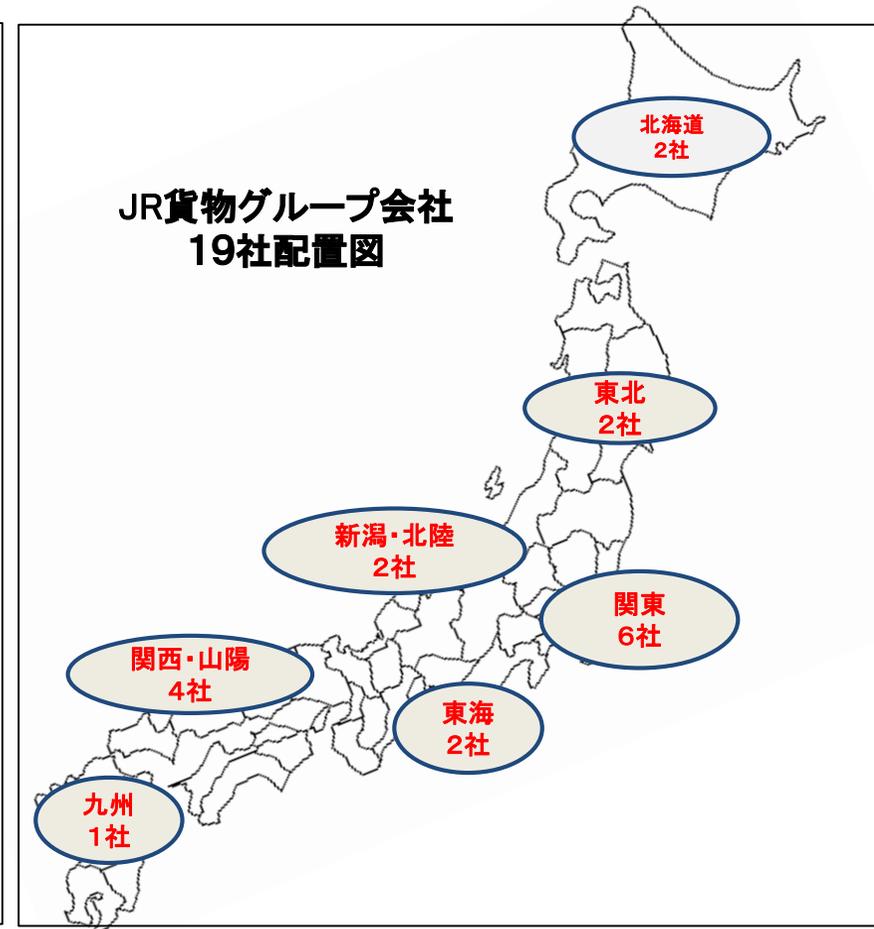
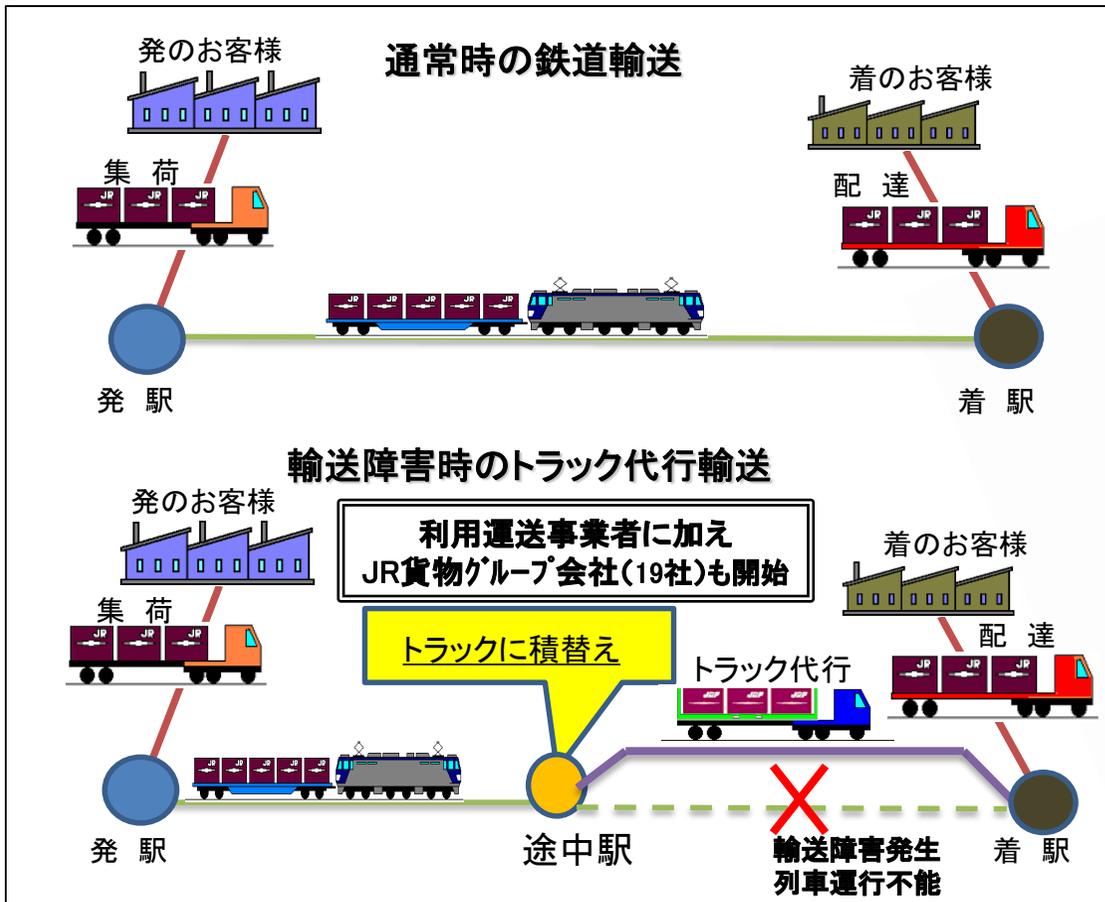


汎用貨車と比較し、新しく300mm低床のコンテナ車を開発することで、コンテナ高さによる支障を解消

参考：国土交通省資料

JR貨物グループ会社によるトラック代行輸送

輸送障害時に、利用運送事業者の協力により行われているトラック代行輸送に加えて、JR貨物グループ会社によるトラック代行輸送を全国的に開始（H26年10月1日より）。

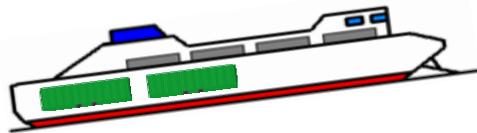


課題2. 輸送コストへの対応

上海→関東エリア間の鉄道とRORO船による複合一貫輸送

国際輸送会社A社 中国からの情報機器の輸入

上海



RORO船
+
鉄道ルート

RORO船+鉄道輸送
(上海→関東)

九州

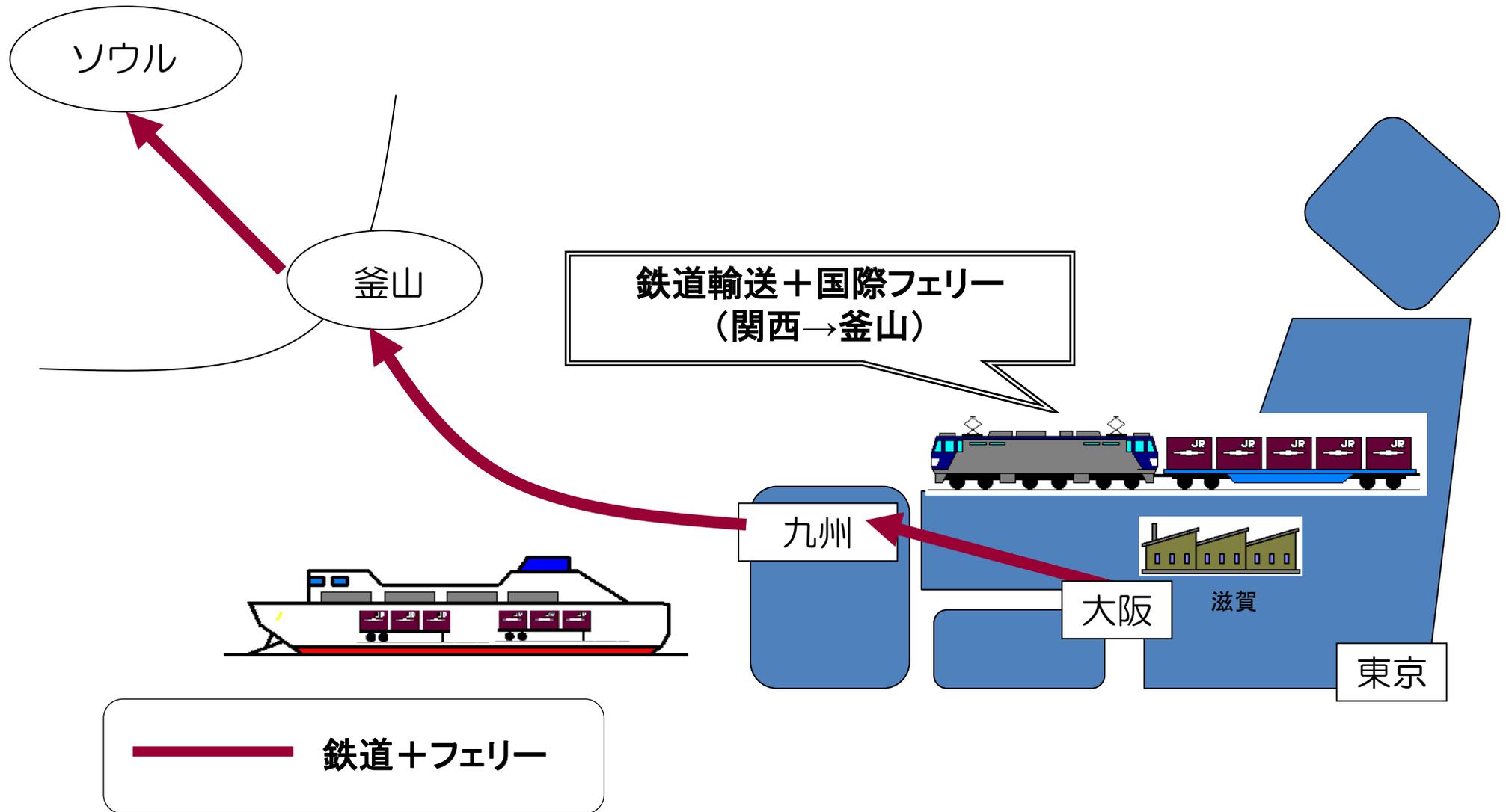


大阪

東京

関西エリア→ソウル間の鉄道と国際フェリーによる複合一貫輸送

電子部品メーカーB社 関西からの電子部品の輸出

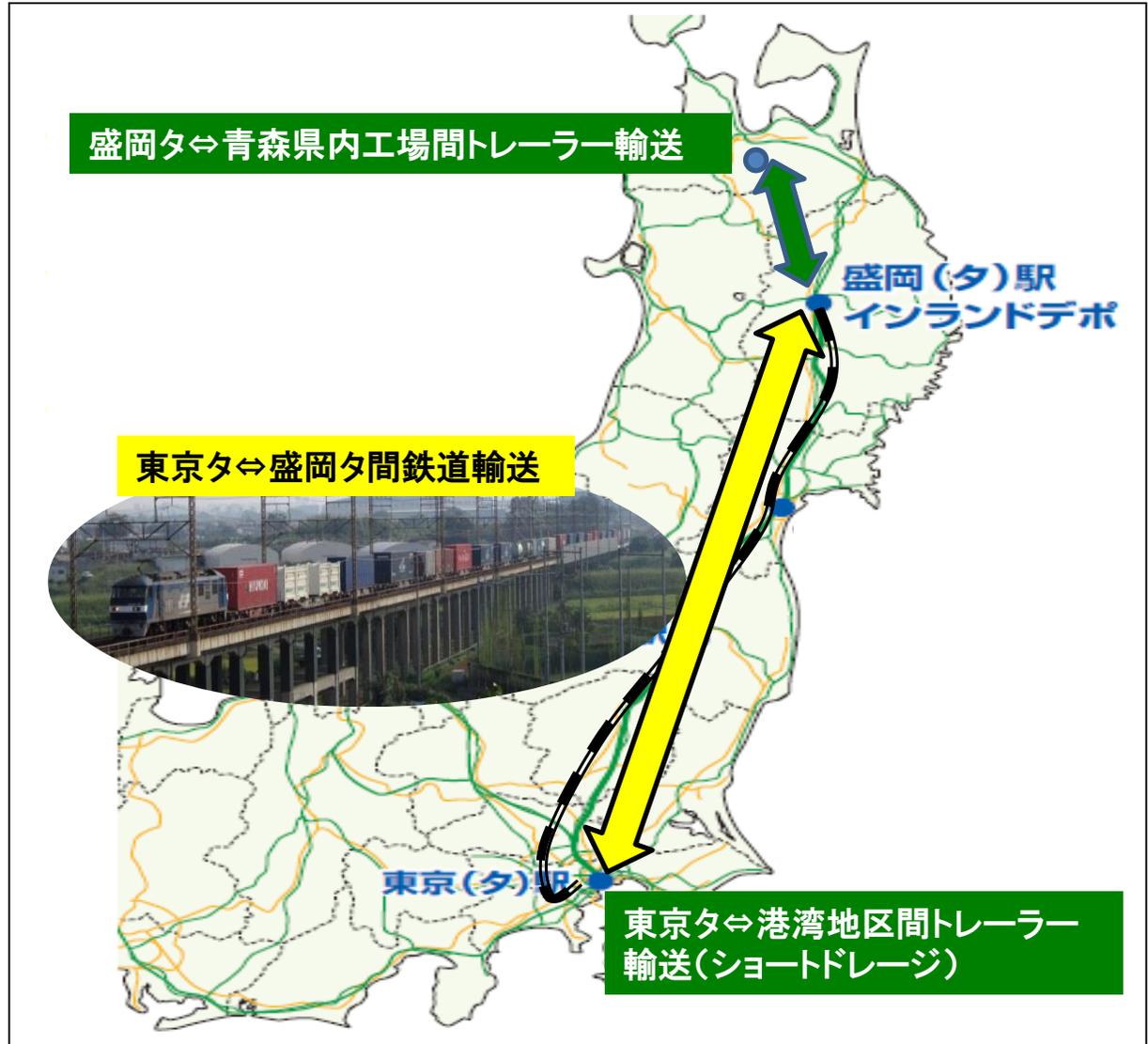


海上コンテナ輸送のコスト改善事例

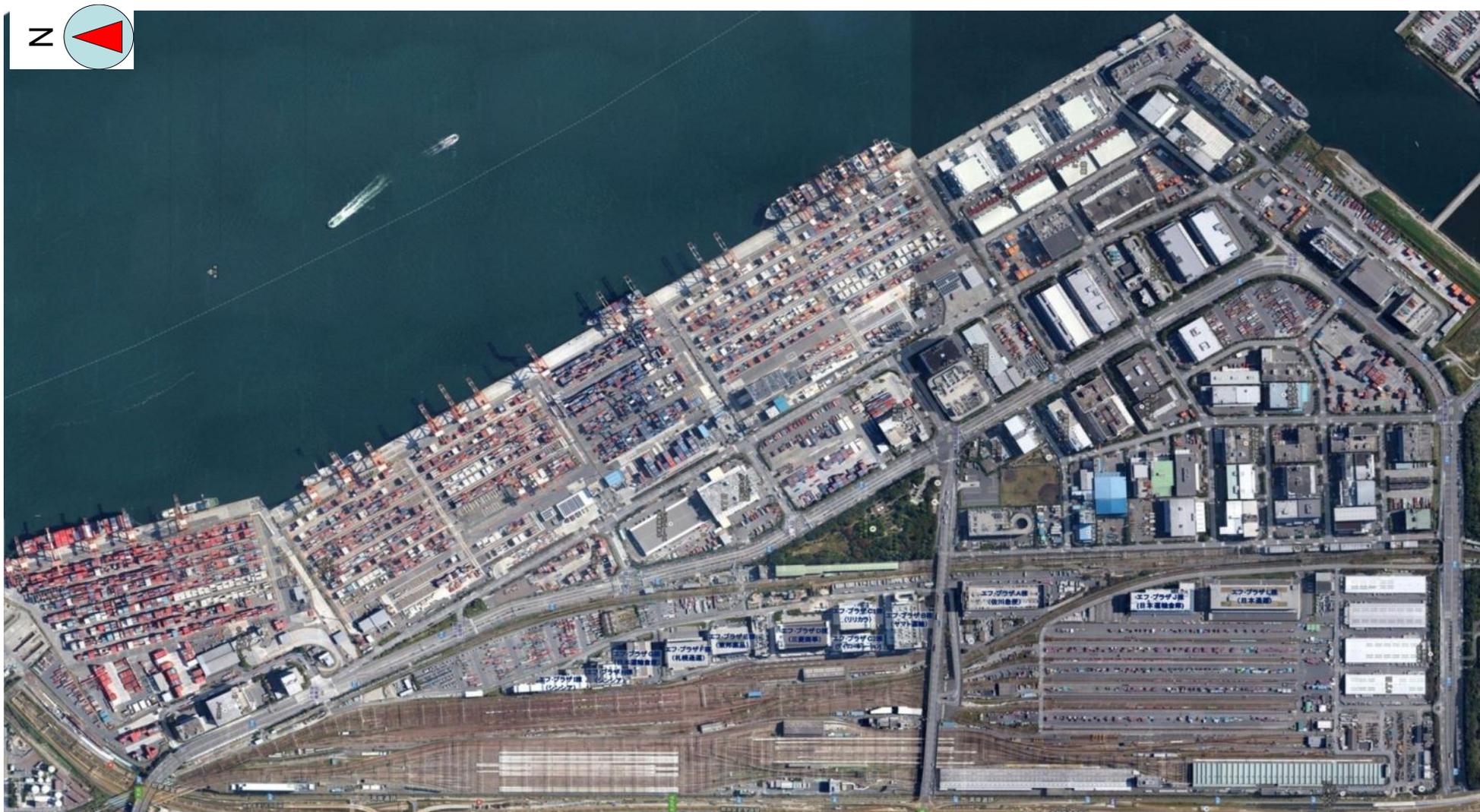
●精密機器メーカー C社 事例

40ftHQのラウンド
ユース

自社輸入貨物(40ft)を配達後、そのコンテナを利用して、輸出貨物の出荷コンテナとしてラウンドユース利用、出荷貨物は一旦港湾地区の倉庫に納入され、輸出される。



港湾との結節 東京大井地区と東京貨物ターミナル駅の位置関係



課題3. 貨物駅機能の強化

CFS積替え輸送への取組み

駅内での積替により国内鉄道ネットワークを最大限に活用



- ・コンテナ間の積替機能
JR12ft ⇔ ISO20・40ft
- ・通関機能(保税蔵置場)
- ・短期保管(調整)機能

輸入貨物

輸出貨物

迅速な積替えで、全国の貨物駅へ鉄道輸送が可能になります。



貨物駅構内CFS



東京貨物ターミナル内の積替施設(駅内CFS)

住所 : 東京都品川区八潮3丁目3番22号

JR貨物東京貨物ターミナル内

株式会社ジェイアール貨物・インターナショナル 東京ICD事業所



NACSS CODE: 1FWP6
(申告税関: 大井税関)
TEL 03-5755-9201

東京貨物ターミナル内の積替施設(駅内CFS)

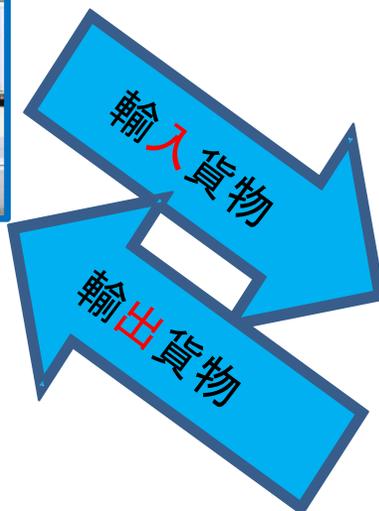


海上コンテナ バン/デバン

駅内の迅速な積
替えて輸出入貨
物と鉄道輸送を
シームレスに接続。



倉庫内



外観



JR12ftコンテナ バン/デバン

東京⇄釜山間の混
載貨物CFSとしても
稼働中



課題4. 鉄道輸送への関心喚起

鉄道貨物輸送のPR活動、モーダルシフト説明会等

●JR貨物の国際物流への取組状況を講演会等を通じて情報発信

- ・博多港湾振興セミナー等での海上コンテナ輸送プレゼンテーション

●モーダルシフト説明会等の実施

- ・鉄道輸送への関心のある企業を中心に貨物駅見学やプレゼンテーションを行い、鉄道輸送の利点をPR

●「鉄道コンテナ利用キャンペーン2014」の実施

(公社)全国通運連盟と共同で、鉄道貨物輸送の認知度向上に向けたキャンペーンを展開。

(大規模ブース出展)

- ・国際総合物流展2014(東京;9月)
- ・エコテクノ2014(北九州;10月)
- ・メッセナゴヤ2014(名古屋;11月)

(各地方ブース出展)

平成26年6月～平成27年2月にかけて10か所で出展

(福岡、金沢、神戸、片岡、新潟、大阪、札幌、広島、東京、熊本)



写真:博多港湾振興セミナーでの講演



写真:40ftコンテナ荷役(現地説明会でも海上コンテナ輸送をPR)



写真:展示会での国際送紹介パネル1/6

課題5. 輸送枠の有効活用・拡大

列車輸送枠の先行申込み、取消料ルールの変更

①輸送枠の先行申込み

列車発車日の28日前より利用運送事業者から運送の申込みを受け付ける「先行申込」により、あらかじめ発送が確定しているコンテナの輸送枠を事前に確保が可能。

(通常の申込み) 列車発車日の7日前から輸送枠取得が可能

(先行申込み) 列車発車日の28日前から指定した区間において輸送枠の申込みが可能



②輸送枠の取消料ルールの変更

(従来) 輸送枠の取消については一律料金

(H27年2月1日～) 列車出線時刻を基準に48時間以前から出線1時間前まで、の時間帯で7段階に分けて取消料を変更。

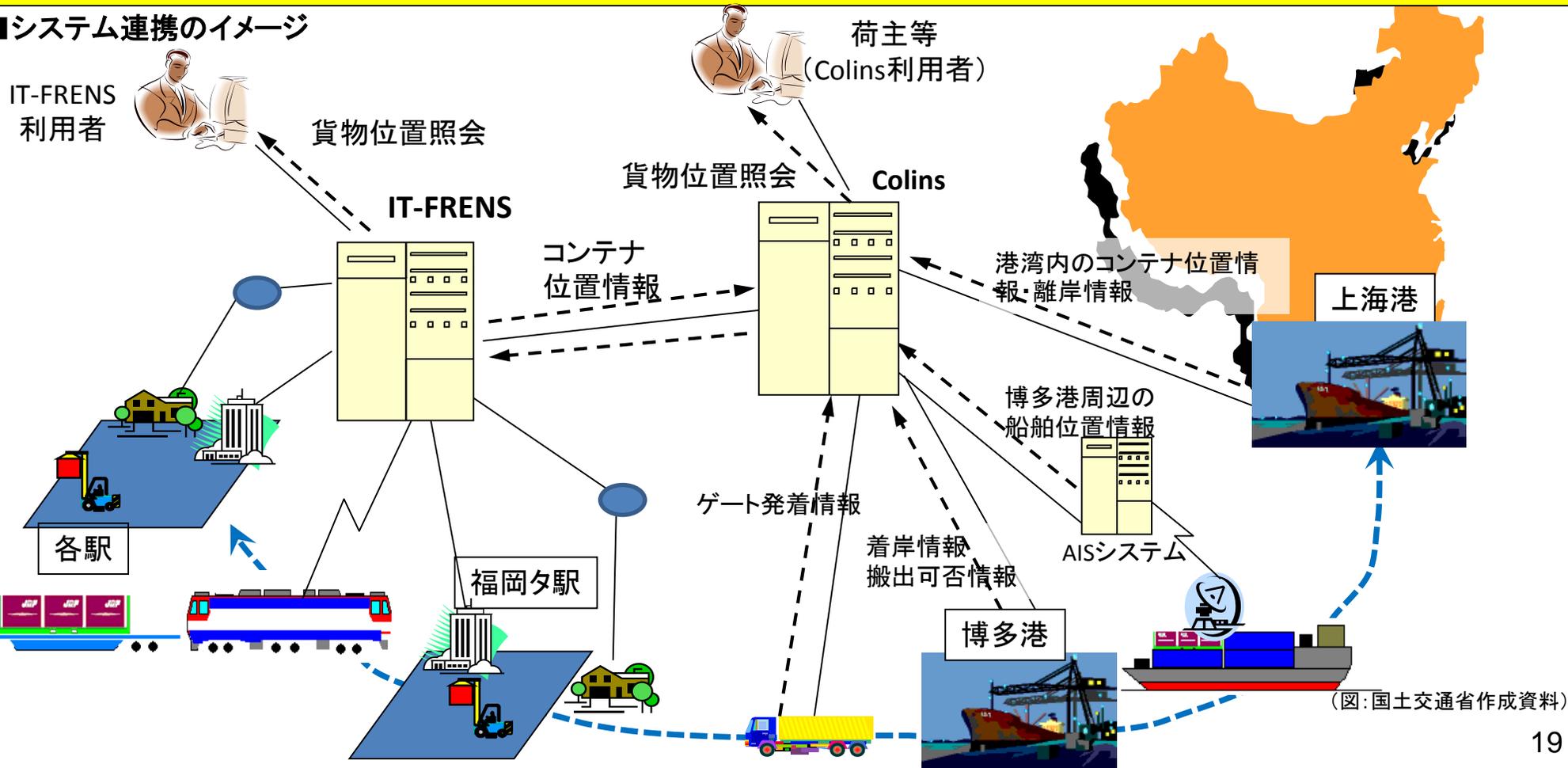
見込みによる多めの輸送枠取得や直前の取消による列車の「空き」を防ぎ、輸送枠を取りやすくなることを期待→積載率の向上

ColinsとIT-FRENSの連携について

- Colinsは、港湾内のコンテナ物流情報を基本的に対象にしているが、サプライチェーンマネジメントの観点から内陸輸送も含めて物流情報の可視化が望まれている。
- そこで、Colinsではこの要望に対応するため、JR貨物が所有する鉄道コンテナ位置情報システム（IT-FRENS）とColinsとシステム接続を行い、内陸輸送も含めたコンテナ可視化に取り組む。

荷主・海貨事業者等は、Colins又はIT-FRENSに接続することで、海外港湾～国内港湾～鉄道輸送の貨物の追跡が可能

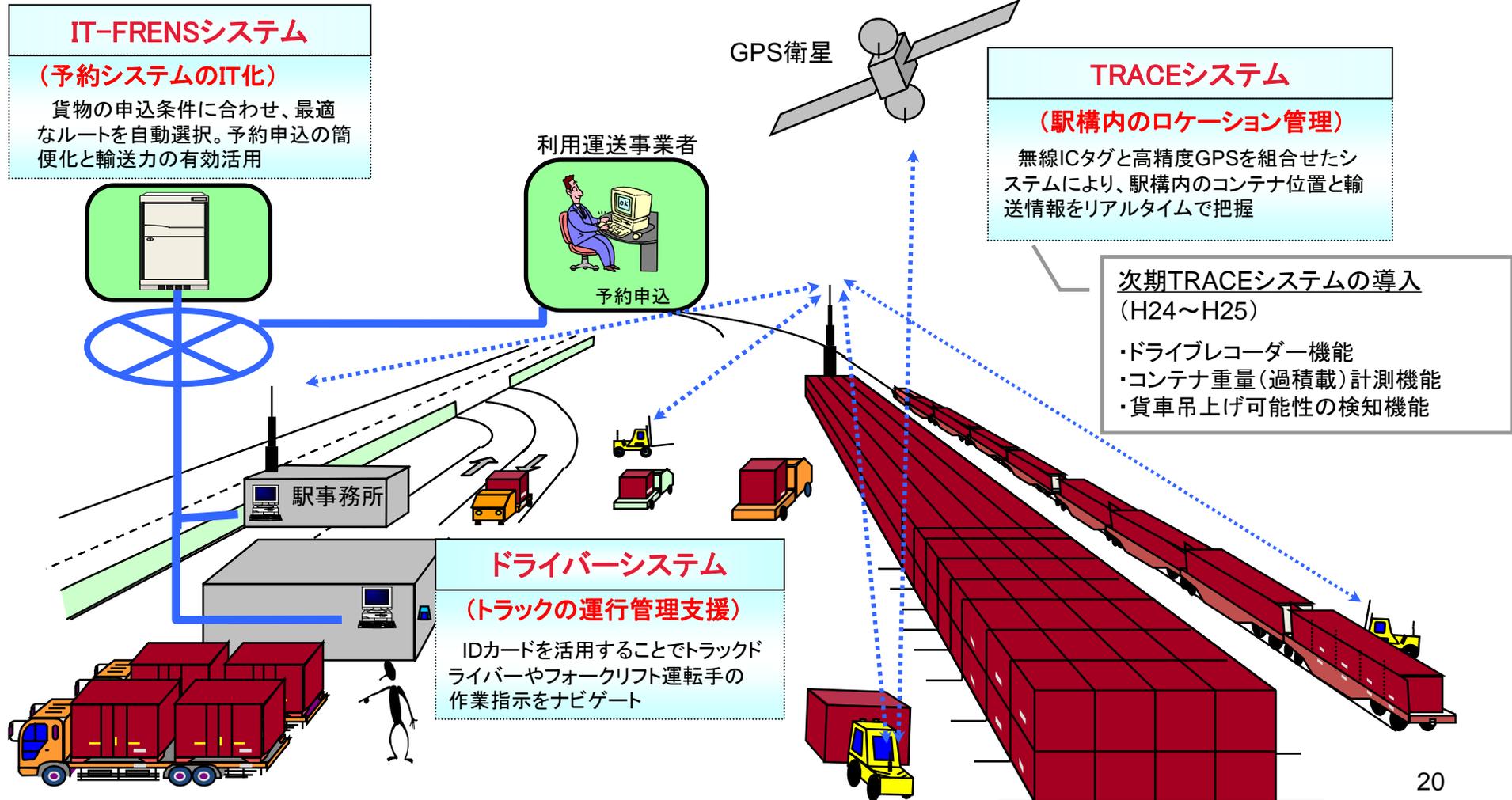
■システム連携のイメージ



IT-FRENSの概要

40年以上にわたる「コンテナ取扱業務」の構造的変革（勘と経験による“人海戦術型”から、全国の貨物駅をネットワークで結んで、“システムによる自動制御方式”へ）

（平成17年8月に全機能の稼働開始）



コンテナ物流情報サービス(Colins)の概要

- コンテナ物流情報サービス(Colins)は、ターミナルオペレーター、荷主、海貨事業者、運送事業者等の、関係事業者間で一元的にコンテナ物流情報を共有化するための会員登録制のウェブサイト型の情報システム。
- 国土交通省港湾局によりシステム開発及び運営。
- 多様な関係者が必要な情報をリアルタイムに共有することにより、情報が可視化され物流業務の効率化、高度化に資する。
- 現在のID登録者数は約4,700、一日平均約24,000件のアクセスがある(いずれも平成24年3月末現在)。

○混雑ウェブカメラ画像

港頭地区に設置したウェブカメラ画像をリアルタイムに提供。

○ゲートオープン時間情報

ターミナルオープン時間などの各ターミナルのお知らせ掲示板。

The screenshot shows the Colins website with a navigation menu at the top: ホーム, マイページ, 混雑状況カメラ, CY搬出可否情報, 船舶動静情報, デマレーシFT照会, ゲートオープン時間情報, メール配信設定, お知らせ, トラッキング. The main content area features a large banner with the Colins logo and a sidebar for a logged-in user (国土 太郎). Below the banner is a 'コンテンツメニュー' (Content Menu) with several highlighted items: '混雑状況カメラ' (Congestion Status Camera), 'CY搬出可否情報' (CY Out/In Information), '船舶動静情報' (Ship Status Information), 'ゲートオープン時間情報' (Gate Opening Time Information), 'メール配信設定' (Email Distribution Settings), and 'トラッキング' (Tracking). A 'お知らせ' (Notice) section is at the bottom.

○搬出可否情報

各ターミナルのシステムから提供される輸入コンテナ搬出可否情報を表示。

○船舶動静情報

各ターミナル、港湾管理者、AISから提供される船舶動静情報を表示。

○貨物トラッキング情報

貨物位置情報を表示。JR貨物とのシステム接続についてはこの機能で表示予定。